

は し が き

近年、皮膚科領域においては、新たな治療薬の導入が進み、治療が様変わりした疾患もあります。こういった治療薬開発と、疾患の病態解明は、表裏一体といっても過言ではありません。新たな病態解明が、治療薬の開発に繋がる一方、新たな治療薬の登場によって、疾患の病態に確固たる証拠がもたらされる、という双方向性の関係を、現在、目の当たりにしています。

次々と明らかになってくる新たな薬物と病態の関係について、われわれ皮膚科医は、整理が追いつかないのが現状です。そういった状況において、両者の関係がわかる書が待望されている、ということが、この増刊号の企画の発端です。

ただ、今回は、対象を新規薬物にとどめず、従来から一般に使われてきた薬物と病態の関係についても見直すよい機会と考え、薬物の対象を広げています。したがって、今回とりあげた疾患は、病態、薬物において大きな動きがあったものだけではありません。しかし、それらの疾患においても、現時点での病態の解釈を確認したうえで、従来から使ってきた薬物の意味を病態と照らし合わせて理解することは大きな意義があると考えています。

今回、ご執筆いただいたのは、日本の皮膚科のなかでももっともアクティブにご活躍なさっている先生方です。そのご尽力によりわれわれが知りたい最新の知見をまとめることができました。本号が、皆様の診療のお役に立つことを心より願っています。

2022 年 4 月

「皮膚科の臨床」編集委員会

土田 哲也

五十嵐敦之

相馬 良直

林 伸和

佐伯 秀久